

(研究報告) 抄録用紙

演題名	在宅患者の浮腫に対するマッサージの効果の検討
演者名	神田浩士 1) 菊池里子 1) 内田朝美 1) 澤登拓 1) 関隆志 2)
所属	1) 株式会社フレアス 2) 東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター

研究方法	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		6
<p>目的</p> <p>在宅にて療養生活を送っている高齢者では、日中の活動性が低下しているため廃用性の浮腫がみられる。また、疾病により関節拘縮が生じた結果、ADLが低下するケースもある。われわれは歩行困難等の理由により通院が困難な患者に対してマッサージを行っている。今回、下肢の浮腫に対するマッサージの効果を検討した。</p> <p>方法</p> <p>対象：医師により歩行困難と診断された高齢者 15 名（平均年齢 80.8±7.7 歳、男性 7 名、女性 8 名、うち変形性膝関節症 3 名、パーキンソン病 2 名、脳出血 2 名、脳梗塞 2 名、左大腿骨頸部骨折 1 名）</p> <p>概要：新規に施術を開始する患者に対して、マッサージと関節可動域訓練を合わせて 20 分間行った。施術頻度は週 1~3 回。初療時、5 週目、10 週目、15 週目の施術前に周径を計測した。計測部位は足関節、足背の 2 箇所とした。ADL 上の変化は歩行状態などについて、医師への報告書をもとに調査をした。</p> <p>結果：足関節の周径は 15 週目に有意に減少した。（右 初療時 21.6±2.7cm, 15 週目 21.1±2.2cm ; p=0.02、左 初療時 22.0±3.0cm, 15 週目 21.1±2.2cm ; p=0.02）また、足関節の周径は週 2 回の施術で有意に改善した（右 初療時 22.4±3.8cm, 15 週目 21.1±3.1cm ; p=0.04、左 初療時 22.6±4.3cm, 15 週目 21.1±2.9 ; p=0.04）が、週 1 回の施術では有意な変化を認めなかった。足背の周径は有意な変化を認めなかった。被験者 15 例のうち 3 例について、起き上がり動作の自立、デイサービスへの通所開始、自宅敷地内での活動量増加といった顕著な ADL 上の改善がみられた。</p> <p>考察：今回、足関節の浮腫は軽減したが、足背は変化がみられなかった。これは下腿三頭筋による筋ポンプ作用の影響が大きいためと考えられる。回数別の比較では、週 2 回の施術によるマッサージ刺激の蓄積効果が浮腫の改善に寄与したと考えられるため、施術は週 2 回以上、必要かもしれない。今後、被験者数と観察期間を増やして検討することが必要である。</p>		